

令和2年7月豪雨におけるDPAT活動について (報告事項)

DPAT事務局

大雨特別警報発令県	大雨特別警報発表日時
熊本県	7月4日 04:50
鹿児島県	7月4日 04:50
福岡県	7月6日 16:30
佐賀県	7月6日 16:30
長崎県	7月6日 16:30
岐阜県	7月8日 6:30
長野県	7月8日 6:43



7月4日午前5時30分
球磨村(小川合流点)ではん濫発生
 国土交通省 九州地方整備局 八代河川国道事務所



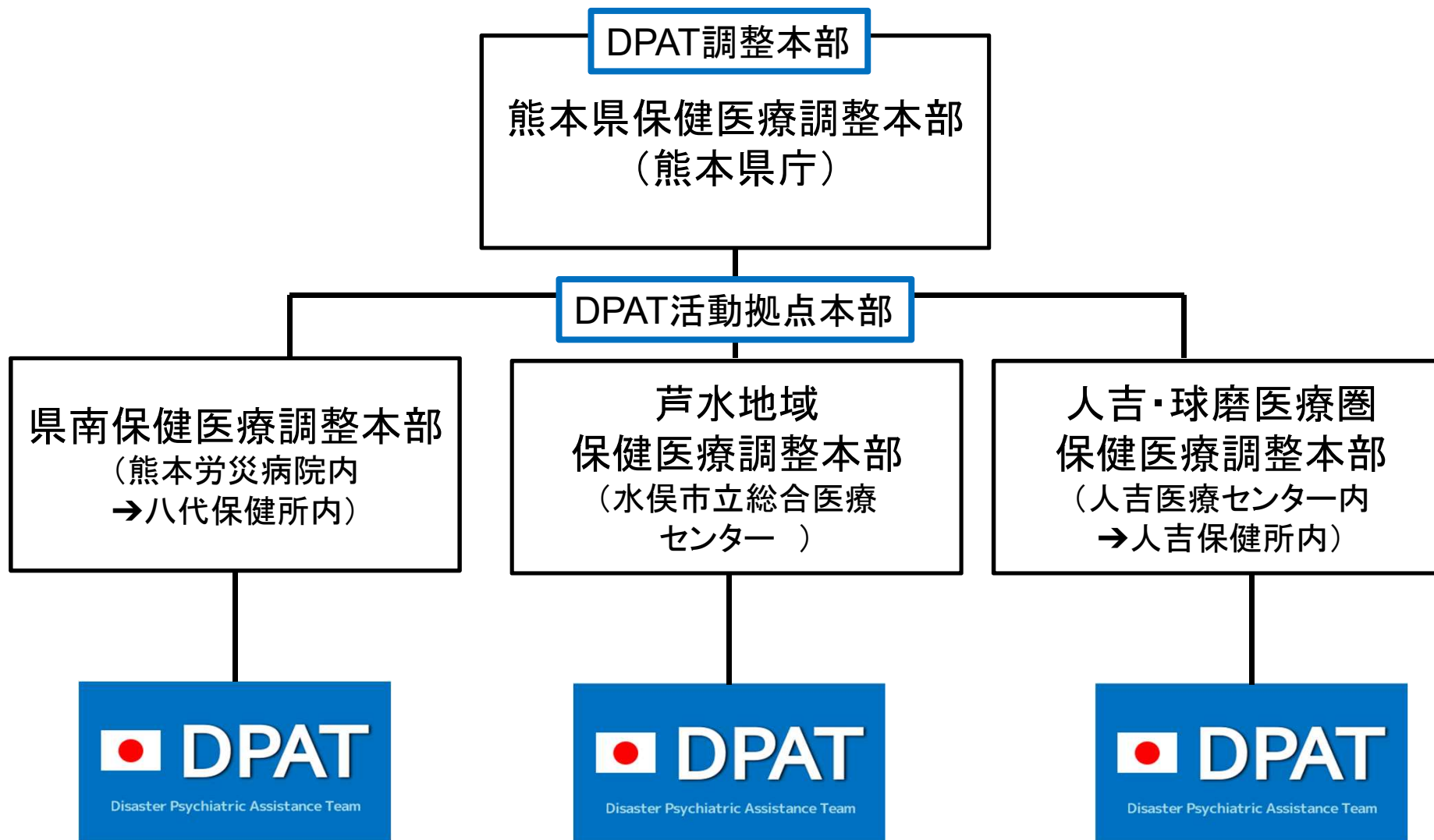
令和2年7月豪雨の特徴

- 広域、多数の孤立地域
 - ✓ 近隣県DPATによる支援困難
- コロナ禍での災害
 - ✓ 感染対策の徹底
 - ✓ 支援県によるDPAT派遣の逡巡と、被災県による受援の遠慮
- 熊本地震後の災害
 - ✓ 熊本地震によって創られた地域ネットワークの活用

DPATの活動

- 派遣要請
 - 熊本県から中国、九州・沖縄各ブロック管内DPATに対し派遣要請
- 活動期間
 - DPAT:2020年7月4日～7月28日
- 活動隊数
 - DPAT87チーム(熊本県DPAT59チーム、熊本県外28チーム)、約319名
- 活動場所
 - DPAT調整本部(熊本県庁)
 - DPAT活動拠点本部(県南保健医療調整本部内(熊本労災病院内→八代保健所内))
 - 人吉・球磨医療圏保健医療調整本部内(人吉医療センター内→人吉保健所内)
 - 芦水地域保健医療調整本部内(国保水俣市立総合医療センター内))
 - 熊本県内医療機関 等
- DPAT事務局の活動(派遣)実績
 - DPAT本部(東京)にて活動
 - 延べ 25隊

指揮系統図



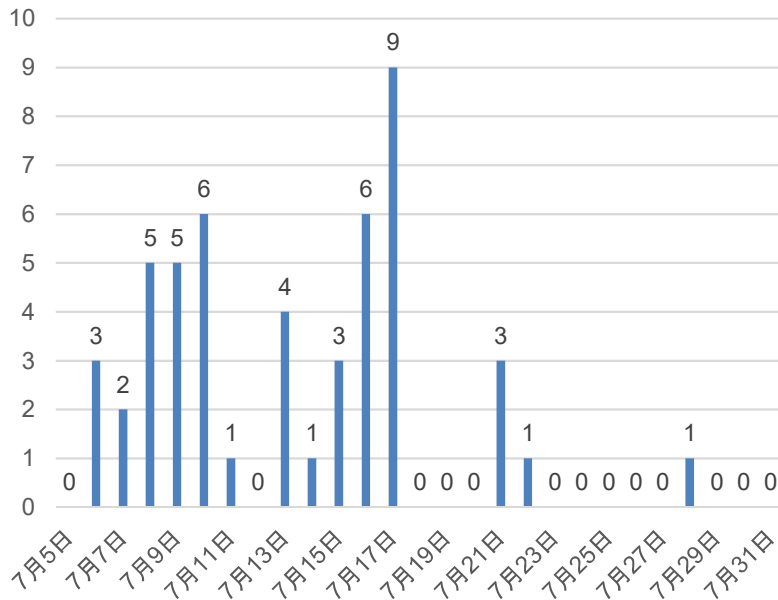
DPATの活動

- 各被災地域の被害状況把握
- 精神科医療ニーズのスクリーニング（医療機関・関連施設）
- 医療機関・施設への人的・物資支援の調整
- 避難所診療支援
- 被災者のメンタルケアに対するリーフレットの作成と、配布
- 令和2年度7月豪雨DPAT活動マニュアルの作成
- 新型コロナ対策（隊員の検温等体調管理）
- 市町村・保健所支援

2020年7月31日時点解析データ

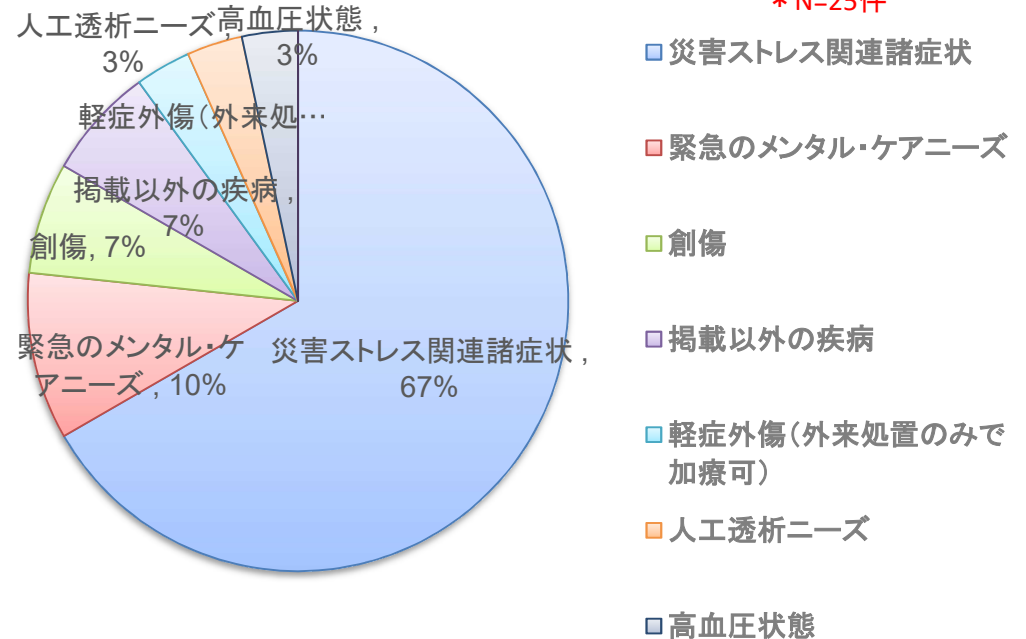
診療件数推移

累積50件（男性28件、女性22件）



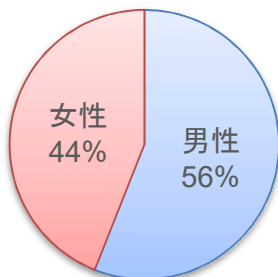
健康事象TOP10 :

* N=25件



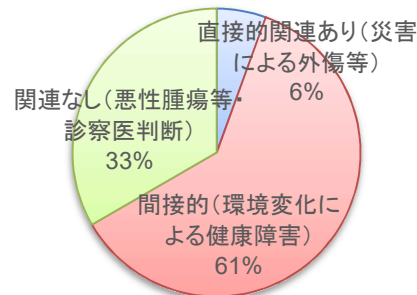
男女比

* N=50件



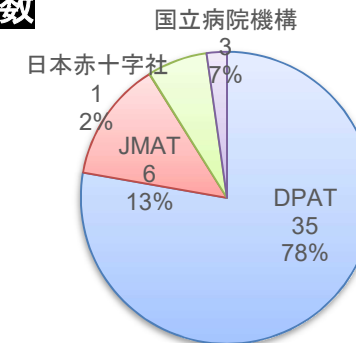
関連性

* N=50件



診療日報数

* N=45件



* 健康事象の解析対象は健康事象に欠損値がない664件を対象とした。うち関連性は欠損値がない件を解析対象とした。

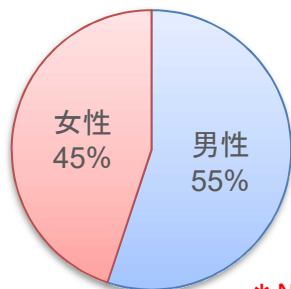
* 欠損値のある症例は解析対象後に除外している

2020年7月31日時点データ

男女比

精神保健医療 累計49件
(男性27件、女性22件)

※診療データが入力されている
ものを対象とした(N)



* N=49件

本人の訴え * N=49件

本人の訴え	件数
眠れない	20
不安だ	16
災害場面が目につく	4
ゆううつだ	10
体の調子が悪い	7
死にたくなる	3
周りから被害を受けている	2
物忘れがある	2
その他	14

行動上の問題 * N=49件

本人の訴え	件数
話がまとまらない	3
怒っている	1
興奮している	3
話すすぎる	5
応答できない	0
徘徊している	2
自傷している	1
自殺を試みる	0
暴言・暴力をふるう	0
酒をやめられない	0
その他	13

ICD分類別件数 * N=49件

ICD分類	件数
F0：認知症，器質性精神障害	3
F1：物質性精神障害	1
F2：統合失調症関連障害	4
F3：気分障害	12
F4：神経症，ストレス関連障害	16
F5：心身症	0
F6：人格・行動の障害	0
F7：知的障害〈精神遅滞〉	4
F8：心理的発達の障害	6
F9：児童・青年期の障害	4
F99：診断不明	1
G40：てんかん	0

必要な支援 * N=49件

必要な支援	件数
精神医療	22
身体医療	3
保健・福祉・介護	10
地域・職場・家庭等での対応	20

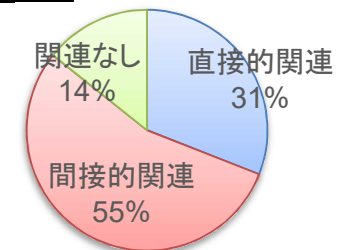
必要な支援 * N=49件

必要な支援	件数
支援継続	4
支援終了	44

対応 * N=49件

対応	件数
処方	2
入院・入所	1
地域の保健医療機関へ紹介・調整	4
傾聴・助言等	39

災害関連性 * N=42件



* 欠損値のある症例は解析対象ごとに除外している

DPATの活動の振り返り

- ・ DPATを含むすべての医療チームによる診療件数は累計818件であり、健康事象が報告された664件のうち、災害ストレス関連諸症状は9%（約60件）であった
- ・ DPATを含むすべての医療チームによる精神保健医療対応は75件のうち、精神医療が必要とされた件数は23件であった
- ・ DPATを含むすべての医療チームによる精神保健医療対応は75件であり、その内49件はDPATによる対応であった
- ・ DPATが行った精神保健医療対応は、傾聴・助言が39件、地域の保健医療機関へ紹介・調整が4件、処方箋が1件、入院・入所が1件であった
- ・ 災害時のメンタルヘルスケアの普及啓発として、被災者のメンタルケアに対するリーフレットを作成し、避難所に配布した
- ・ 令和2年度7月豪雨のDPAT活動マニュアルの作成をした
- ・ 災害初期から精神保健福祉センターと連携し、支援者支援活動を行った
- ・ すべての医療チームが診察の中で災害ストレス関連諸症状や緊急のメンタルケア・ニーズ等を多数診断しており、速やかにDPATに相談・診察依頼をしたことにより、早期に介入し精神保健医療対応を行うことができた

參考資料



J-SPEED診療日報



World Health Organization

WHO国際標準準拠手法

- 熊本地震（2016年）で初めて大規模稼働したJ-SPEED診療日報が、熊本豪雨災害で再び稼働された
（本報告集計期間：2020年7月5日～31日）
- J-SPEED診療日報
 - 医療救護班数： 82チーム
 - 診療日報数： 一般診療版：209件
精神保健医療版：45件
 - 累計診療件数： 818件

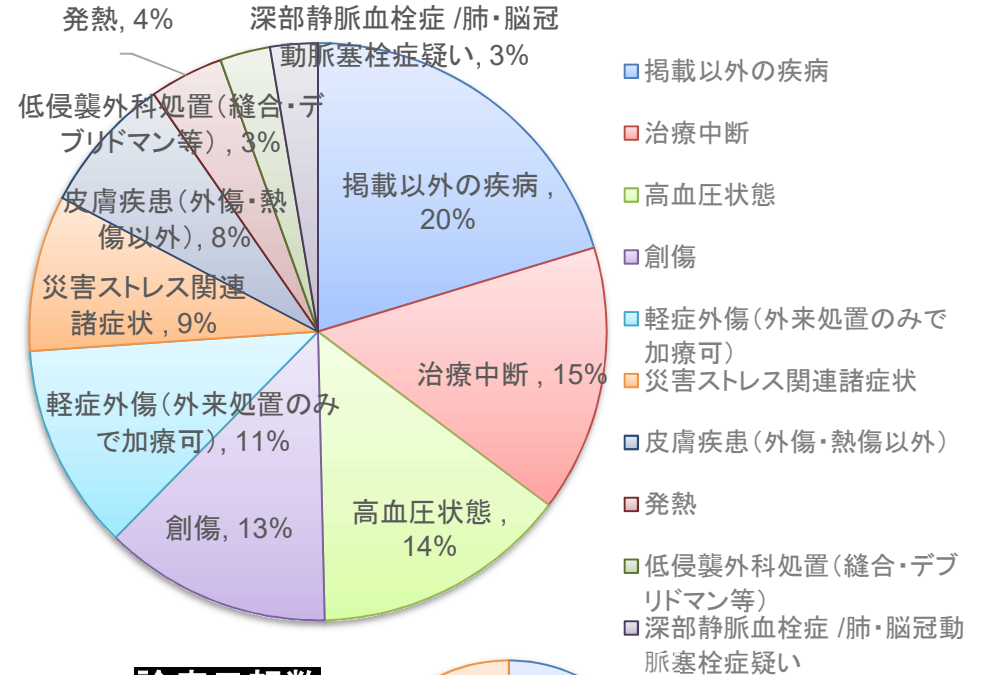
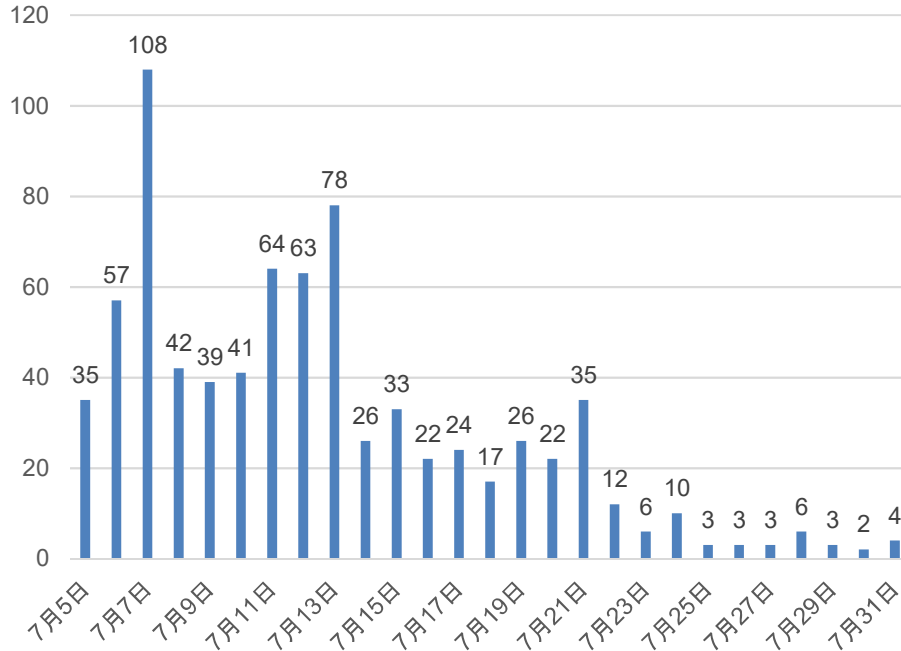
令和2年7月豪雨 J-SPEED診療概況データ(一般診療版)

※DPAT以外の医療救護班の対応内容も含む

診療件数推移 累積818件(男性401件、女性417件)

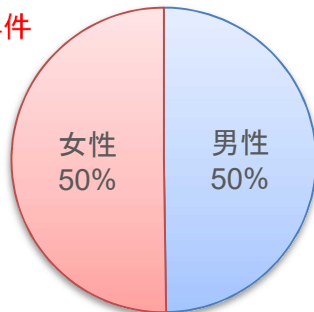
健康事象TOP10 * N=664件

2020年7月31日時点解析データ



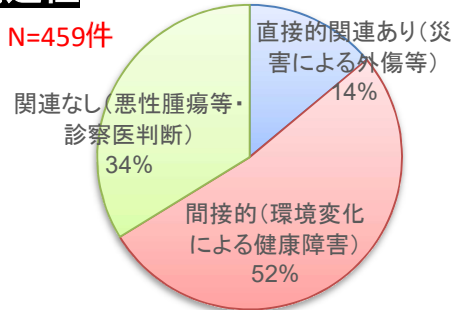
男女比

* N=784件



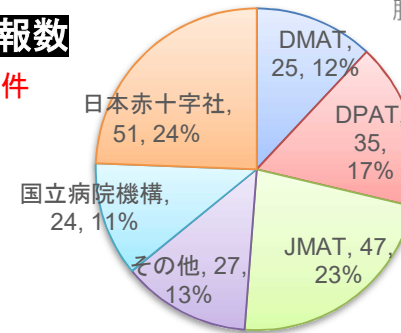
関連性

* N=459件



診療日報数

* N=209件



* 健康事象の解析対象は健康事象に欠損値がない664件を対象とした。うち関連性は欠損値がない件を解析対象とした。

* 欠損値のある症例は解析対象後とに除外している

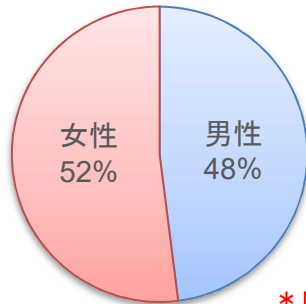
令和2年7月豪雨 J-SPEED診療概況データ（精神保健医療版）

※DPAT以外の医療救護班の対応内容も含む

2020年7月31日時点データ

男女比

精神保健医療 累計 75件
(男性36件、女性39件)



* N=75件

本人の訴え

* N=75件

本人の訴え	件数
眠れない	21
不安だ	17
災害場面が目につく	4
ゆううつだ	10
体の調子が悪い	9
死にたくなる	3
周りから被害を受けている	2
物忘れがある	3
その他	17

行動上の問題

* N=75件

本人の訴え	件数
話がまとまらない	3
怒っている	1
興奮している	3
話すすぎる	6
応答できない	0
徘徊している	2
自傷している	1
自殺を試みる	0
暴言・暴力をふるう	0
酒をやめられない	0
その他	13

ICD分類別件数

* N=75件

ICD分類	件数
F0：認知症，器質性精神障害	5
F1：物質性精神障害	1
F2：統合失調症関連障害	4
F3：気分障害	12
F4：神経症，ストレス関連障害	16
F5：心身症	0
F6：人格・行動の障害	0
F7：知的障害〈精神遅滞〉	4
F8：心理的発達の障害	6
F9：児童・青年期の障害	4
F99：診断不明	1
G40：てんかん	0

必要な支援

* N=75件

必要な支援	件数
精神医療	23
身体医療	3
保健・福祉・介護	12
地域・職場・家庭等での対応	21

必要な支援

* N=75件

必要な支援	件数
支援継続	9
支援終了	45

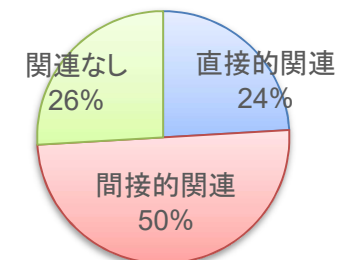
対応

* N=75件

対応	件数
処方	11
入院・入所	1
地域の保健医療機関へ紹介・調整	6
傾聴・助言等	45

災害関連性

* N=54件



* 欠損値のある症例は解析対象ごとに除外している